

1

(1)  $(2+i)^2 = 4+4i+i^2 = 3+4i$  ... (答)

$(2+i)^3 = 8+12i+6i^2+i^3$   
 $= 2+11i$  ... (答)

$(2+i)^4 = (3+4i)^2 = 9+24i+16i^2$   
 $= -7+24i$  ... (答)

$(2+i)^5 = (3+4i)(2+11i)$   
 $= 6+41i+44i^2$   
 $= -38+41i$  ... (答)

また、これらの虚部の整数を10で割った余りは、順に

4, 1, 4, 1 ... (答)

である。

- (2) 2以上のすべての整数  $n$  に対して、  
 「 $(2+i)^n$  の実部と虚部は整数であり、実部と虚部をそれぞれ10で割った余りは、  
 $n$  が偶数のとき、順に3, 4  
 $n$  が奇数のとき、順に2, 1  
 である。」 ... (\*)

が成り立つことを数学的帰納法を用いて示す。

[I]  $n=2$  のとき、(1)より (\*) は成り立つ。

[II]  $n=k (\geq 2)$  のとき (\*) が成り立つと仮定する。

(ア)  $k$  が偶数のとき、

$(2+i)^k = (10A+3) + (10B+4)i$   
 ( $A, B$  は整数)

とおける。

このとき、 $k+1$  は奇数であり、

$(2+i)^{k+1} = (2+i)^k (2+i)$   
 $= \{(10A+3) + (10B+4)i\} (2+i)$   
 $= (20A-10B+2)$   
 $\quad + (10A+20B+11)i$   
 $= \{10(2A-B)+2\}$   
 $\quad + \{10(A+2B+1)+1\}i$

これより、 $(2+i)^{k+1}$  の実部と虚部は整数であり、実部を10で割った余りは2、虚部を10で割った余りは1であるから、 $n=k+1$  のときも (\*) は成り立つ。

(イ)  $k$  が奇数のとき、

$(2+i)^k = (10C+2) + (10D+1)i$   
 ( $C, D$  は整数)

とおける。

このとき、 $k+1$  は偶数であり、

$(2+i)^{k+1} = (2+i)^k (2+i)$   
 $= \{(10C+2) + (10D+1)i\} (2+i)$   
 $= (20C-10D+3)$   
 $\quad + (10C+20D+4)i$   
 $= \{10(2C-D)+3\}$   
 $\quad + \{10(C+2D)+4\}i$

これより、 $(2+i)^{k+1}$  の実部と虚部は整数であり、実部を10で割った余りは3、虚部を10で割った余りは4であるから、 $n=k+1$  のときも (\*) は成り立つ。

以上より、2以上のすべての整数  $n$  に対して (\*) は成り立つから、 $(2+i)^n$  の虚部は0ではなく  $(2+i)^n$  は虚数である。

また、 $n=1$  のとき  $(2+i)^1$  は虚数である。

よって、 $n$  を正の整数とすると  $(2+i)^n$  は虚数であることが示された。

(証明終り)

2

$$(1) I = \int_0^1 x^2 \sqrt{1-x^2} dx$$

$x = \sin \theta$  ( $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ ) とおくと,

$$\frac{dx}{d\theta} = \cos \theta, \quad \begin{array}{l} x \parallel 0 \rightarrow 1 \\ \theta \parallel 0 \rightarrow \frac{\pi}{2} \end{array}$$

である,  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  において,

$$\sqrt{1-x^2} = \sqrt{1-\sin^2 \theta} = \cos \theta$$

であるから,

$$I = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 \theta \cos^2 \theta d\theta$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\sin \theta \cos \theta)^2 d\theta$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1}{4} \sin^2 2\theta d\theta$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1}{8} (1 - \cos 4\theta) d\theta$$

$$= \left[ \frac{1}{8} \left( \theta - \frac{1}{4} \sin 4\theta \right) \right]_0^{\frac{\pi}{2}}$$

$$= \frac{\pi}{16} \dots (\text{答})$$

$$(2) J = \int_0^1 x^3 \log(x^2+1) dx$$

$x^2+1 = t$  とおくと,

$$2x \frac{dx}{dt} = 1, \quad \begin{array}{l} x \parallel 0 \rightarrow 1 \\ t \parallel 1 \rightarrow 2 \end{array}$$

であるから, 部分積分法を用いる

こととする。

$$J = \int_1^2 \frac{1}{2} (t-1) \log t dt$$

$$= \frac{1}{2} \left\{ \left[ \frac{1}{2} (t-1)^2 \log t \right]_1^2 \right.$$

$$\left. - \int_1^2 \frac{1}{2} (t-1)^2 \cdot \frac{1}{t} dt \right\}$$

$$= \frac{1}{4} \log 2$$

$$- \frac{1}{4} \int_1^2 \left( t - 2 + \frac{1}{t} \right) dt$$

$$= \frac{1}{4} \log 2$$

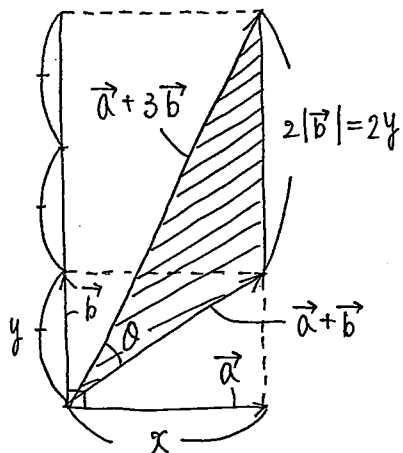
$$- \frac{1}{4} \left[ \frac{1}{2} t^2 - 2t + \log t \right]_1^2$$

$$= \frac{1}{4} \log 2 - \frac{1}{4} \left( -\frac{1}{2} + \log 2 \right)$$

$$= \frac{1}{8} \dots (\text{答})$$

3

(1)



図より  $\theta$  は鋭角である。

$$|\vec{a} + \vec{b}| = \sqrt{x^2 + y^2}, \quad |\vec{a} + 3\vec{b}| = \sqrt{x^2 + 9y^2}$$

図の斜線をつけた三角形の面積に注目すると、

$$\frac{1}{2} \sqrt{x^2 + y^2} \sqrt{x^2 + 9y^2} \sin \theta = \frac{1}{2} \cdot 2y \cdot x$$

両辺正のもとで2乗し、整理すると、

$$\sin^2 \theta = \frac{4x^2 y^2}{(x^2 + y^2)(x^2 + 9y^2)} \dots \text{(答)}$$

(2) (1)より

$$\begin{aligned} \sin^2 \theta &= \frac{4}{\left(\frac{x}{y} + \frac{y}{x}\right)\left(\frac{x}{y} + 9\frac{y}{x}\right)} \\ &= \frac{4}{\left(\frac{x}{y}\right)^2 + 9\left(\frac{y}{x}\right)^2 + 10} \dots \text{①} \end{aligned}$$

ここで、相加・相乗平均の大小関係を用いると、

$$\left(\frac{x}{y}\right)^2 + 9\left(\frac{y}{x}\right)^2 \geq 2\sqrt{\left(\frac{x}{y}\right)^2 \cdot 9\left(\frac{y}{x}\right)^2} = 6$$

が成り立つ。

また、等号は

$$\left(\frac{x}{y}\right)^2 = 9\left(\frac{y}{x}\right)^2 = 3 \text{ かつ } \frac{x}{y} > 0$$

すなわち、

$$x = \sqrt{3}y$$

のとき成り立つ。

したがって、

$$\left(\frac{x}{y}\right)^2 + 9\left(\frac{y}{x}\right)^2 + 10 \text{ の最小値は } 16$$

であり、①より

$$\sin^2 \theta \text{ の最大値は } \frac{1}{4}$$

である。

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  のもとで

「 $\sin \theta$  が最大」 $\iff$  「 $\theta$  が最大」

が成り立つから、

$$\sin \theta = \frac{1}{2} \text{ のとき } \theta \text{ は最大値 } \frac{\pi}{6} \dots \text{(答)}$$

をとる。

4

(1)

$$\begin{cases} y = x^2, \\ y = mx + 1 \end{cases}$$

を連立して  
yを消去  
すると、

$$x^2 = mx + 1.$$

$$x^2 - mx - 1 = 0.$$

判別式をDとして、

$$D = m^2 + 4 > 0$$

であり、異なる2つの実数解  
を小さい順に $\alpha, \beta$ とおく。

図のように、

$$A(\alpha, \alpha^2), B(\beta, \beta^2)$$

と定める。

解と係数の関係より、

$$\alpha + \beta = m, \alpha\beta = -1. \dots \textcircled{1}$$

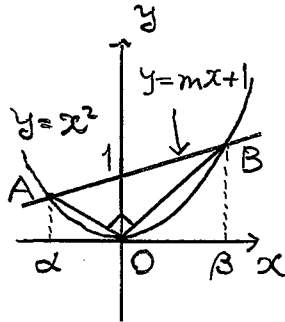
ここで、

$$\begin{aligned} \vec{OA} \cdot \vec{OB} &= \alpha\beta + \alpha^2\beta^2 \\ &= (-1) + (-1)^2 \\ &= 0. \end{aligned}$$

$\vec{OA} \neq \vec{0}, \vec{OB} \neq \vec{0}$  であるから、

$\vec{OA} \perp \vec{OB}$  となり、 $\angle AOB = \frac{\pi}{2}$ .

(証明終り)



(2) (1)の結果より、3点A, B, O  
を通る円は、

2点A, Bが直径の両端  
である円となる。したがって、

①より、求める円の方程式は

$$(x-\alpha)(x-\beta) + (y-\alpha^2)(y-\beta^2) = 0.$$

$$x^2 + y^2 - (\alpha + \beta)x$$

$$- \{(\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta\}y + \alpha\beta + \alpha^2\beta^2 = 0.$$

$$x^2 + y^2 - mx - (m^2 + 2)y = 0.$$

--- (答)

(3)

$$\begin{cases} y = x^2, \\ x^2 + y^2 - mx - (m^2 + 2)y = 0 \end{cases}$$

を連立してyを消去すると、

$$x^4 - (m^2 + 1)x^2 - mx = 0.$$

$$x(x^2 - mx - 1)(x + m) = 0.$$

A, B, O以外の共有点を

もたないための条件は、

$$(i) -m = 0$$

または、

$$(ii) \text{ 方程式 } x^2 - mx - 1 = 0 \text{ が}$$

$$x = -m \text{ を解にもつ}$$

と成り立つ。

(i)より、 $m = 0$  であり、(ii)より

$$(-m)^2 - m \cdot (-m) - 1 = 0.$$

$$2m^2 - 1 = 0.$$

$$m = \pm \frac{1}{\sqrt{2}}.$$

よって、 $m = 0, \pm \frac{1}{\sqrt{2}}$ . ... (答)

5

(1) 点Pと原点Oの距離をdとおくと,

$$\begin{aligned} d^2 &= x^2 + y^2 \\ &= \frac{(4+5\cos t)^2 + (3\sin t)^2}{(5+4\cos t)^2} \\ &= \frac{16+40\cos t+25\cos^2 t+9\sin^2 t}{(5+4\cos t)^2} \\ &= \frac{25+40\cos t+16\cos^2 t}{(5+4\cos t)^2} \\ &= \frac{(5+4\cos t)^2}{(5+4\cos t)^2} \\ &= 1. \end{aligned}$$

$d \geq 0$  より,

$$d = 1. \quad \dots (\text{答})$$

$$(2) \frac{dx}{dt} = \frac{1}{(5+4\cos t)^2} \left\{ -5\sin t(5+4\cos t) - (4+5\cos t)(-4\sin t) \right\}$$

$$= \frac{-9\sin t}{(5+4\cos t)^2},$$

$$\frac{dy}{dt} = \frac{1}{(5+4\cos t)^2} \left\{ 3\cos t(5+4\cos t) - 3\sin t(-4\sin t) \right\}$$

$$= \frac{12+15\cos t}{(5+4\cos t)^2}.$$

よって,

$$\begin{aligned} \vec{v} &= \left( \frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right) \\ &= \left( \frac{-9\sin t}{(5+4\cos t)^2}, \frac{12+15\cos t}{(5+4\cos t)^2} \right). \quad \dots (\text{答}) \end{aligned}$$

また,

$$\vec{r} = \left( \frac{-3y}{5+4\cos t}, \frac{3x}{5+4\cos t} \right)$$

と、 $d^2 = x^2 + y^2 = 1$  に注意すると,

$$|\vec{r}|^2 = \frac{9}{(5+4\cos t)^2}.$$

$|\vec{r}| \geq 0, 5+4\cos t > 0$  より

$$|\vec{r}| = \frac{3}{5+4\cos t}. \quad \dots (\text{答})$$

(3) (2) より

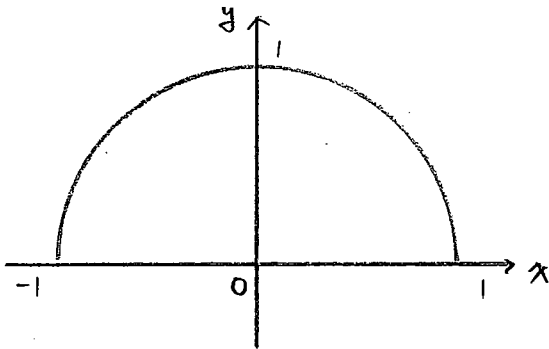
$$\int_0^\pi \frac{dt}{5+4\cos t} = \frac{1}{3} \int_0^\pi |\vec{v}| dt. \quad \dots \textcircled{1}$$

t	0	...	$\alpha$	...	$\pi$
$\frac{dx}{dt}$	0	-	-	-	0
$\frac{dy}{dt}$	+	+	0	-	-
$\vec{v}$ の向き	↑	↖	←	↙	↓
(x, y)	(1, 0)		(0, 1)		(-1, 0)

(実数 $\alpha$ は、次の条件を満たすものとする)  
 $0 < \alpha < \pi$  かつ  $\cos \alpha = -\frac{4}{5}$

5

さらに, (1)に注意すると,  $t$  が  $0 \leq t \leq \pi$  の範囲を変化するとき, 点  $P$  が描く曲線は, 下の図のような半円である.



この曲線の長さは  $\pi$  であるから,

$$\int_0^{\pi} |\vec{r}'| dt = \pi. \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ②より,

$$\int_0^{\pi} \frac{dt}{5 + 4\cos t} = \frac{\pi}{3}. \quad \dots \text{(答)}$$